

下呂市生涯学習の基本方針



下呂市教育委員会

平成27年8月28日

目 次

下呂市生涯学習の基本方針

はじめに	1～2
1 生涯学習の基本理念	3～4
(1) 市の責務	3
(2) 市民個々の役割	4
(3) 家庭、地域の役割	4
2 下呂市生涯学習の方向	5
3 分野別教育の方針	6～9
(1) 家庭教育	6
(2) 青少年教育	7
(3) 地域教育	8
(4) 情報教育	9
4 生涯スポーツ	10
5 各ライフステージの生涯学習	11
6 学習推進にあたっての顕彰と評価	12～13
(1) 生涯学習の顕彰と支援体制の整備	12
(2) 下呂市合理化政策に伴う生涯学習の評価の方針	13
参照 年代別ライフステージにおける生涯教育		
(1) 乳児・幼児期のライフステージにおける生涯学習	15～16
乳幼児期 (0歳～3歳)		
幼児期 (4歳～6歳)		
(2) 青少年期のライフステージにおける生涯学習	17～18
少年期 (7歳～12歳)		
青年期 (13歳～20歳)		
(3) 成人期のライフステージにおける生涯学習	19～19
成人期1 (21歳～40歳)		
成人期2 (41歳～64歳)		
(4) シニア期のライフステージにおける生涯学習	21～22
シニア期 (65歳～)		

下呂市生涯学習の基本方針

はじめに

下呂市教育委員会では、下呂市が新たな視点で生涯学習時代にふさわしい創造と感動と交流を求めて、地域風土に沿った生涯学習社会の構築を願っています。

本基本方針では、主人公である市民が、学んだ英知を豊かに生きる原動力とし、さらに地域に還元することにより、市民主体によるまちづくりが推進されることを求めています。充実した学習、ボランティア、スポーツ活動等によって、市民が、人生を豊かなものにしていくために、「だれもが いつでも どこでも」学習機会を得ることができるまちづくりを目指します。

少子・高齢化や高度情報化、国際化などの急激な進展による社会の変化に併せ、生涯学習を取り巻く環境も変化し、情報モラルの欠如や地域・家庭の教育力の低下などの課題も生じています。特に平成23年3月の東日本大震災は、国民全体に生活のあり方、人と人との絆、支えあいの大切さなどを強く考えさせる出来事でした。

これまでの生きがいや自己の可能性を広げる学びに加え、この時代を生き抜くための学びが重要になって来ました。人と人とのつながりや成果を、家庭・地域・学校の中に活かされることが、今後さらに大切であると考えます。教育委員会は、社会教育を含め市民の学習活動の柱となる「下呂市生涯学習の基本方針」を新たに策定し、市民の生きがいや心の豊かさ、知識や技術などを習得するための支援をします。

新たな下呂市、新たな地域の創造のために、生涯学習を通じて市民と行政が責任と役割分担を明確にして、自治会やコミュニティ活動、ボランティアなど市民の自主・主体的な様々な活動に、市と協働して活力ある地域づくりを目指す市民の姿勢を期待しています。

今後は、本方針に基づき、『だれもが生涯にわたり、いつでもどこでも自由に学び、互いに高めあうとともに、学びの成果が活力ある地域づくりにつながる生涯学習のまち』のための諸施策の積極的な推進に努めてまいりますので、市民皆様をはじめ、関係の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本方針策定につきましては、下呂市社会教育委員の会、下呂市スポーツ推進審議会から貴重な答申を賜り、また、その答申には、関係団体や市民の皆様のご貴重なご意見やご提案をいただきました。

皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

平成27年8月28日

下呂市教育委員会

下呂市生涯学習推進の基本方針

1 生涯学習の基本理念

下呂市は、社会構造の急激な変化、国際化、情報化、価値観の多様化の現代、その時々課題を的確に踏まえ、新たな視点で生涯学習時代にふさわしい創造と感動と交流を求めて、地域風土に沿った生涯学習社会の構築を目指します。

生涯学習は人づくりにあり、地域の主人公である市民は、学んだ英知を地域に還元し、原動力とすることにより市民主体によるまちづくりが推進されることを願っています。

基本 理 念	市民一人ひとりが生涯にわたって豊かな人生を送ることができるよう学習し、その英知と努力を結集し、未来を築く生涯学習社会や、活力ある地域づくりにつなげることを目指します。
--------------	---

◆基本理念は3本の柱で活力ある生涯学習社会の構築を目指します。

- 自立・・・的確に判断し、行動・活動が出来る人づくり
- 協働・・・仲間や地域で協力し、活動できる家庭・地域づくり
- 創造・・・伝統や文化の伝承と、変化を受けとめ新たに創り出す社会づくり

(1) 市の責務

◎「参加したい、活動しやすい、喜びにつながる施策づくりに努めます」

①	市民一人ひとりの学習意欲を喚起するため、事業の企画と啓発活動を積極的に行います。
②	市民が気軽に生涯学習にふれあえる施設・設備の開放を進めるとともに、活用する組織の自立した運営を目指します。
③	学習機会の拡充のため、登録団体との連携を図り、市民への情報提供を行います。
④	支え合いと活気のある社会を目指し、幅広いボランティアとリーダーの育成を図ります。
⑤	行政相互の連絡・調整を図り、他からの情報を取得して市民の期待に応える施策に努めます。
⑥	市民生活に活気がみなぎる故郷、快適で美しい環境、豊かな伝統・文化が息づく生涯学習事業の展開を目指します。

(2) 市民個々の役割

◎「健康」「生きがい」をもって活動し、充実した日々を送りましょう。

①	心身の健康増進を目指しましょう。
②	「何かをやれば成長できる」を合言葉に行動を起こしましょう。
③	スポーツ・学習・ボランティアなどのサークルに参加しましょう。
④	人との出逢いを求めて活動し、新たな自分を発見しましょう。
⑤	自分たちで自主的に活動することで喜びを膨らませましょう。
⑥	一人ひとりが自己を磨き、高め、それを地域社会に還元しましょう。

(3) 家庭、地域の役割

◎「家庭力を育てよう」「親の輪、地域の輪づくりをしよう」

①	家庭は、子育ての場であるとともに家族の絆を深め、明日へのエネルギーをつくり出す場になります。子どもに基本的な生活習慣・生活能力、豊かな情操、他に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーなどを身につけさせる、重要な役割を果たしましょう。
②	保育園と家庭との連携を密にしながら、幼児の基本的な生活習慣、仲間との関わりや善悪の判断の醸成を目指していく役割があります。そのためにも自然体験を取り入れるなどの活動の工夫をしましょう。
③	家庭や地域は、学校との協働・連携を図りましょう。
④	農地と森林が大半である下呂市は、生活の基盤を観光、農林業、原材料の生産を中心とした企業で占められています。近年、少子高齢化が進み、人口減も課題になり、財政面にも影響が出るようになりました。こうした背景のもと、自立と共生に根ざした地域づくりが求められています。自治会活動の自立した組織と運営により、地域住民による支え合いと活気のある地域社会をつくりましょう。
⑤	核家族化、少子化、情報化などにより、家庭教育を支える環境が大きく変化する中、社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まっています。学校支援ボランティア、見守り、教育活動サポートなど協働・連携して地域全体で子どもを育む環境づくりに努めましょう。

2 下呂市生涯学習の方向

市は、生涯学習活動を通して、個々の発意に基づく自助活動が、市民の喜びと元気につながることを目指し、多くの市民が公益性のある地域の共同作業に自主的に参加することを願っています。

市民が社会的に果たすべき重要な役割に鑑み、一人でも多くの市民が連携しどのような契機で生涯学習活動に参加して頂けるのか知ることが重要です。市民の参加を喚起できる方向を掲げ、地域づくりや子育てなど身の回りがよく見えるようなライフプランの設定を考えます。

◇ 生涯学習の目標

目 標	1 学習	： 自己をみがき、生きがいをもつ。
	1 スポーツ	： 心身の健康を目指した運動を継続する。
	1 ボランティア	： 進んで活動に参加し、社会に奉仕する。
ラ イ フ プ ラ ン の 設 定	(1) 指導者・リーダーの養成	① 各種指導者の発掘と養成
		② 青少年の社会参加の促進
	(2) 学習情報の提供	① 生涯学習の理解を深める情報の提供・啓発
		② 生涯学習リーダーバンクの整備
	(3) 学習機会の充実	① ニーズに応じた学習機会の提供
		② クラブ、サークル活動の支援
		③ 現代的課題の学習機会の充実
		④ ボランティア活動の育成
	(4) 学習施設の充実と活用	① 生涯学習活動拠点の整備と位置づけ
		② 学校、市、民間施設の活用
		③ 文化財、自然、歴史、文化等資料の整理
	(5) 評価と社会的還元	① 学習成果の顕彰と評価
		② ボランティア活動の支援促進制度

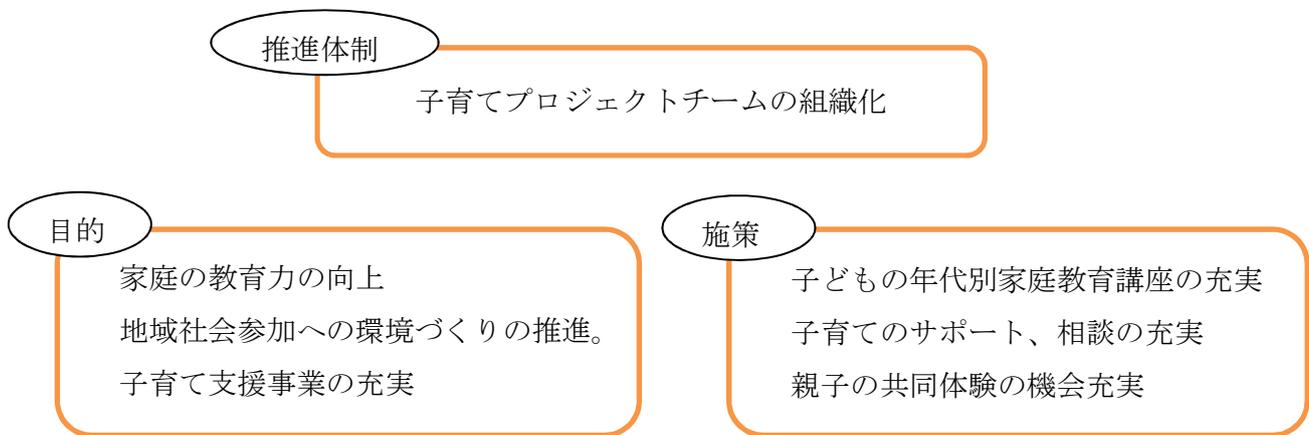
3 分野別教育の方針

(1) 家庭教育

下呂市の家庭教育は、①子育て支援、②青少年の育成、③保育園や学校、地域が連携し、「家庭の教育力」、「地域参加」の向上、④公共心や規範意識、自己規制の力などを身につけるため、情報提供の充実、プログラムの工夫など、関係行政相互の連携と、事業の充実を図り、自立を目指し、積極的に温かい心をもった子どもの育成と未来を担う子どもたちの生涯にわたる人格形成の基礎を培うことを目指します。（人権教育の基礎）

母親の胎内から、家庭教育の出発点

◎ 家庭教育の充実



【今後の取組】

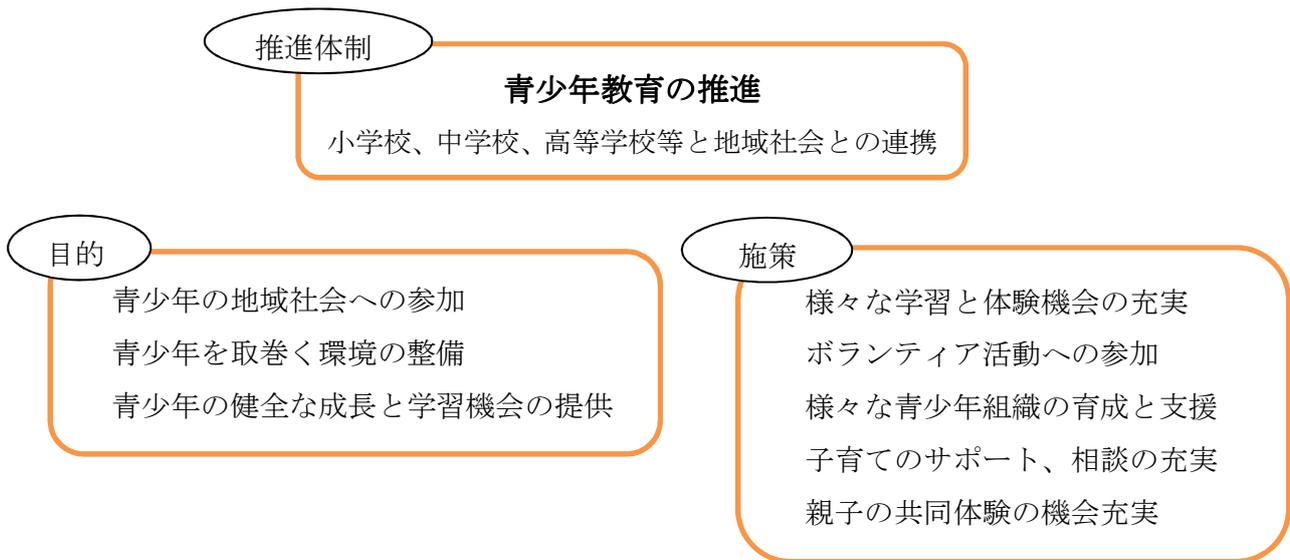
- ① 家庭の日における家族ぐるみの地域活動への参加。
- ② 保育園、小中学校、高等学校と地域の連携強化。
- ③ 家庭教育支援民間団体とのネットワークの構築と、子育て支援ボランティアの育成。
- ④ 子どもの発達段階に応じた年代別家庭教育講座、人権広報活動の充実。
- ⑤ 有識者、関係行政、子育て関係NPO団体代表、子育て当事者代表、支援当事者（子育て支援に従事する者）が、子育て支援の施策プロセスなどに参画・関与することができる仕組みの設置と取組。

【参照】 乳児、幼児期及び、青少年期のライフステージ

(2) 青少年教育

生涯にわたる学習・生活の、基礎・基盤となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらには社会変化に適切に対応できる能力や、たくましく生きるための健康や体力などの「誇りをもって共に生きる力」を身に付けることを目指します。

◎ 青少年教育の充実



【今後の取組】

- ① 家庭の日における家族ぐるみの地域活動への参加。
- ② 野外活動を通しての子ども会活動支援とジュニアリーダーやシニアリーダーの育成。
- ③ 地域の関係諸団体やスポーツクラブなど、青少年の取組体制の整備と支援。
- ④ 青少年の奉仕・体験活動・地域行事等の機会づくりや参加への配慮。
- ⑤ 青少年の体験研修や施設の充実。
- ⑥ 家庭教育の充実。

【参照】 青少年期のライフステージ

(3) 地域教育

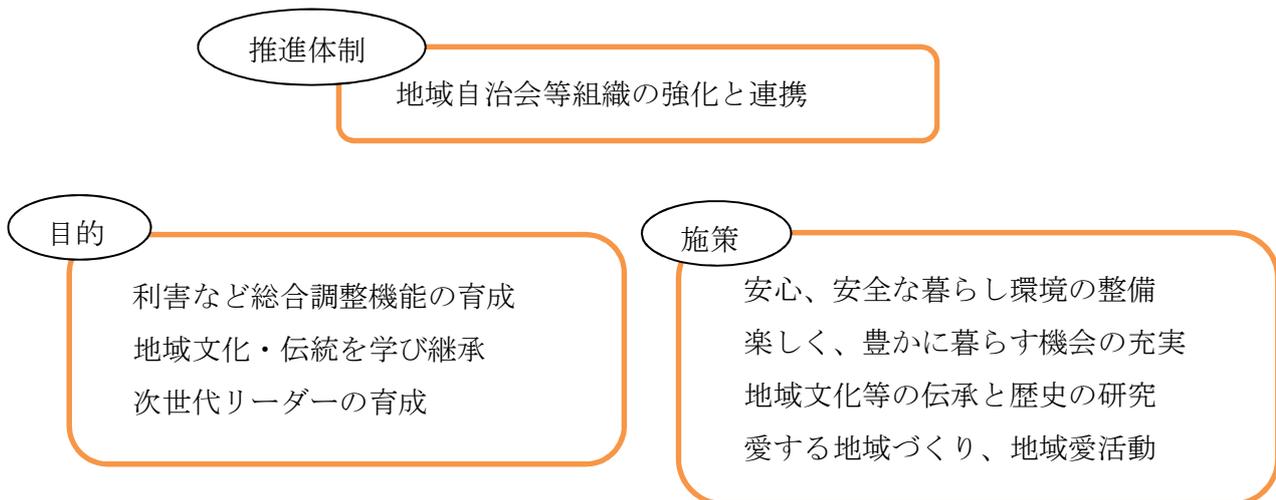
今、全国的な地域コミュニティの衰退に対し、行政側からの働きかけとは別に、住民側、市民団体側からの再生の動きも全国では活発となっています。

背景には、

- ① 大災害などに備えて、コミュニティの結束力を再構築する動きが広がっている。
- ② 市町村合併が進む中、「手作り自治会」運動がみられる。
- ③ 地域コミュニティ自体に活動の機運が強まっている。

日常生活における最小コミュニティは家族であり、彼らの手に余る事案に遭遇したとき、それに対処する相互扶助の役割は、これまで地域コミュニティが果たしてきました。これは、誰かがどこかで担うものであり、それは今後も地域コミュニティに期待します。

◎ 地域教育の充実



【今後の取組】

- ① 安全に暮らす（防災、防犯、交通、住宅管理支援、医療等）
- ② 楽しく暮らす（イベント、サークル、仲間づくり、健康づくり等）
- ③ 安心して暮らす（地域福祉、環境保全等）
- ④ 豊かに暮らす（郷土文化の保全と伝承、地縁法人及び農事法人化のコミュニティビジネス等）

【参照】年代別ライフステージ 項目C、D.

◎地域教育における生涯学習の目標

「人と人とがつながり、支え合い、誰もが安心して暮らせる地域社会をめざして」

(4) 情報教育

生涯学習の情報教育とは、情報処理能力を高めることによって、市民が地域社会の中で主体性や創造性を発揮できるようになることが目的です。情報活用能力には、「情報活用」「情報の理解」「情報社会に参画」の要素が相互に関係しています。

◇ 市民の情報活用

課題や目的に応じた必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力を育成しよう。

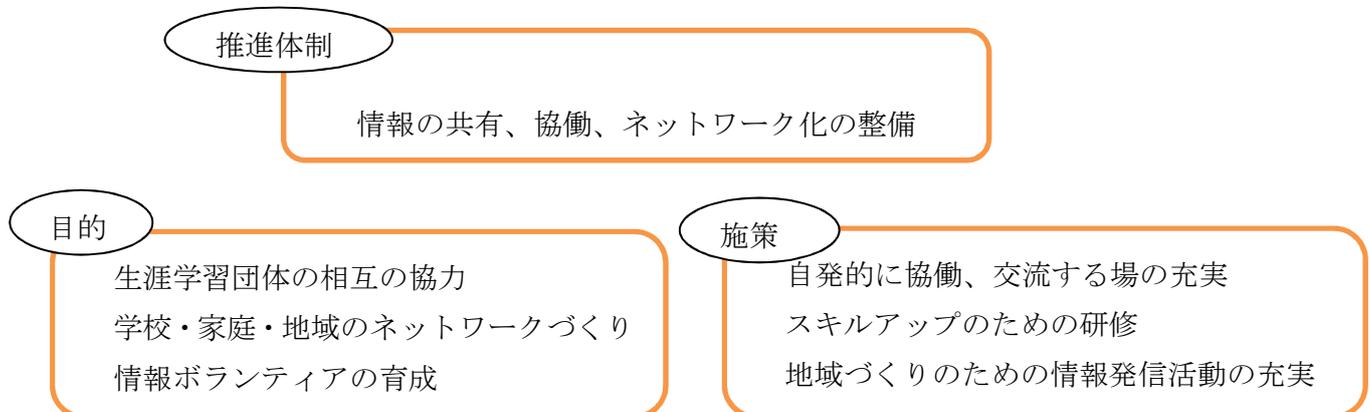
◇ 市民の情報への理解

情報を適切に扱い、自らの情報内容の評価・改善するための方法、理解力を育成しよう。

◇ 情報社会に参画

社会生活の中で情報が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について理解し、望ましい情報社会の創造に参画しよう。

◎ 情報教育の充実



【今後の取組】

- ① 図書館、社会教育施設、社会体育施設、資料館等のネット化。
- ② 市ホームページ、タウン情報など、行政情報の提供のネット化。
- ③ 下呂市防災メール及び岐阜県の川と道のアラームメール接続の推進。
- ④ 下呂市ケーブルテレビの活用。（光通信、Wi-Fi など）
- ⑤ 生涯学習総合ホームページの開設。（講座、イベント、地域活動の案内等、団体の案内等）

4 生涯スポーツ

下呂市はスポーツを、運動や競技、体育に限って捉えるのではなく、体力づくり、健康の保持増進はもとより、青少年の健全育成、地域リーダーの育成、観光産業・文化交流などへスポーツの効果、魅力を大きく捉え、特徴を生かしながら地域の活性化を図るとともにスポーツ文化の定着を目指しています。

(1) 現 状

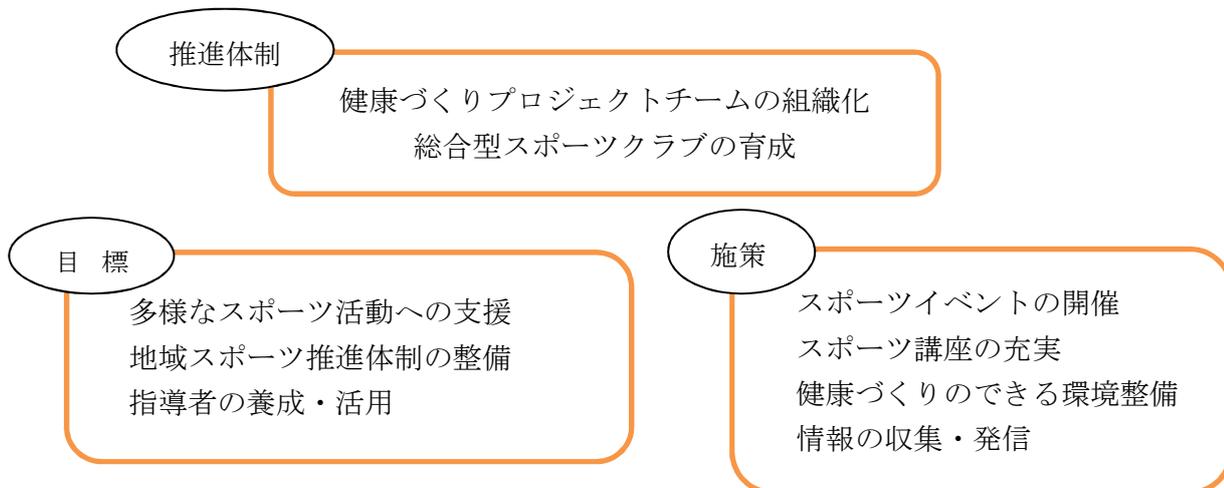
平成24年度市スポーツに関するアンケートにおいて、スポーツが好き60.4%に対し、日常スポーツしている人は、23.9% スポーツ団体に加入している人は16.5%となっており、多くの市民はスポーツと親しむ環境が確保されていない状況です。また、合併10年間において、スポーツ組織の固定化が見受けられ、地域総合型スポーツクラブの育成を推進しましたが、新たな総合型スポーツクラブは出来ていません。

【参照】下呂市スポーツ振興計画（平成25年3月改訂）

(2) 課 題

市民が生涯学習や社会参加を通じて、生きがい・健康づくりに取り組むことができるように、また、スポーツ（運動）に親しむことにより健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、身近な場所で気軽に健康づくりができる機会の充実を図る必要があります。

◎ 生涯スポーツのまちづくりに向けて



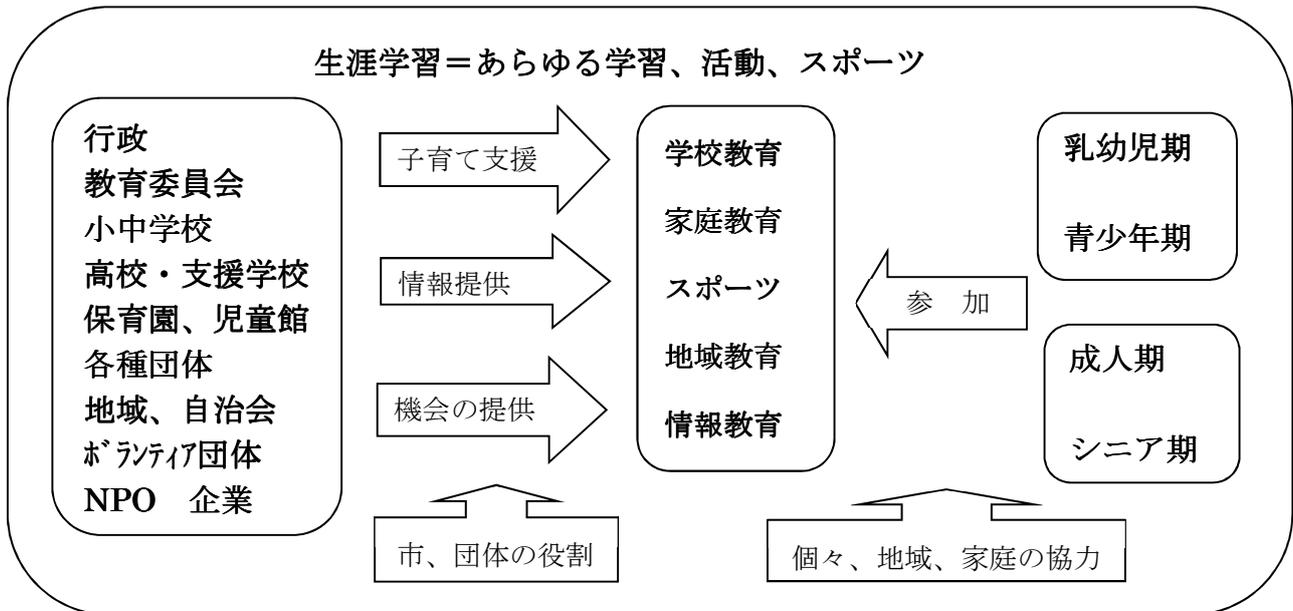
【今後の取組】

- ① 下呂市スポーツ振興計画の推進。
- ② 社会体育においても、健康づくりのための講座を開催し、継続する健康づくり運動の推奨と、関係機関が行う健康づくり運動に関する情報の提供、協力体制の構築。
- ③ 健康診断、生活習慣病の予防等、心の健康づくりなど医療に関する学習機会の提供。
- ④ 成人期（後期）、シニア期を対象としたトレーニング機器の整備。
- ⑤ 体育協会、総合型スポーツクラブの組織強化と新スポーツサークルの育成。

【参照】年代別ライフステージ 項目B.

5 各ライフステージの生涯学習

生涯学習は、社会教育の本来の姿である日常生活の中での自己学習・相互学習を基盤として、市民自らの意思によって、継続し実践する学習・活動です。下呂市の生涯学習社会への道筋は一朝一夕にできあがるものではなく、市民の共感と理解のもとに、各ライフスタイルの重点と目標を定め、市民と行政相互の条件整備を行い、市民活動による生涯学習社会の形成を目指します。



(1) 各ステージ生涯学習の目標

◇ 「みんなで、人にやさしい地域コミュニティづくり」

対象ステージ	目 標	主な重点的分野
乳幼児期 (0歳～3歳)	親への愛情と信頼をもち、情緒の安定した生活をする。	家庭教育、子育て支援
幼児期 (4歳～6歳)	自律心をもち基本的な生活習慣を身に付ける。	保育政策、家庭教育、子育て支援
少年期 (7歳～12歳)	旺盛な知的好奇心をもち積極的に仲間と関わり活発に行動する。	学校教育、家庭教育、子育て支援 青少年教育、地域コミュニティ
青年期 (13歳～20歳)	自己を理解し、自立を目指して、目標や見通しをもって物事に取り組む。	学校教育、家庭教育、子育て支援 青少年教育、地域コミュニティ
成人期 1 (21歳～40歳)	豊かな人生設計を確立し、積極的な社会参加を通して、自らを一層高める。	生涯講座、生涯スポーツ、情報教育 地域コミュニティ
成人期 2 (41歳～64歳)	うるおいのある家庭や地域づくりのために、積極的な参加を通して取り組む。	生涯講座、生涯スポーツ、情報教育 地域コミュニティ
シニア期 (65歳～)	学習した成果を発揮し、他人や社会の役に立ち、それを自分の喜びにする。	生涯講座、生涯スポーツ、情報教育 地域コミュニティ

☆参照 年代別ライフステージの課題と重点

6 生涯学習推進にあたっての顕彰と評価

(1) 生涯学習の顕彰と支援体制の整備

生涯学習の重要な使命のひとつは次代を担う青少年の健全な育成です。常に最善の目標と重点を考え、プログラムの構成と事業の改善を続けることが、市民や地域の自立と発展のために非常に望ましいと考えます。

このような理念・目的に基づいて、顕彰表彰制度を本格的に導入し、特色ある独自の制度として市民の意識改革等と事業の重点の啓発のために、市民会議において「わかあゆ賞」（顕彰表彰制度）を実施しています。

「わかあゆ賞」…次代を担う下呂市の青少年が、社会の変化に順応しながら心身ともにたくましく、人間性豊かに育つことは、市民すべての願いです。この実現に向けて、青少年自身が大いなる夢を描き、自立心と忍耐力を養いながら、自己の確立を目指して自己研鑽に励む姿、並びに勇気ある善行を、社会的に認めて賛意を贈ることは、青少年の健全育成にとって最適な顕彰表彰制度であり今後も継続します。

その青少年を取り巻く成人の指導者（地域コミュニティ・ボランティア活動・地域芸能伝承事業・スポーツなど）が、長年献身的に貢献していることを市民に広く紹介し、模範的な活動を記録に残すことは、生涯学習の推進において重要な意味を持ちます。

◇模範的活動の調査と記録の重点と力点

下呂市において、芸術文化及びスポーツの振興、文化財の保護に尽力するなど地域文化の振興に功績のあった個人及び団体に対し、その功績を記録として調査し紹介します。

① 学習成果

従来の学歴中心の学習観を改善するため、生涯学習歴に基づいた活動内容に適した記録と評価方法を開発する必要があります。

② ボランティア活動の支援促進制度

市内のボランティア組織や個人が活動し、ボランティア活動を生きがいとしている市民も多くおられます。福祉関係を含めたボランティア活動を、幅広いものにするためにも、具体的な活動の記録と調査を行い、広く市民に紹介し、活動の輪を広げるための工夫や、仲間づくりや学習会など支援を行う制度を立案します。

(2) 生涯学習の評価と諮問の方針

生涯学習の政策評価を的確に実施するためには、施策の社会的効果や成果を表す客観的なデータと、重点と力点の生涯学習政策が適切に行われているかなどの観点から、事業評価を行うことが必要です。また、生涯学習の推進にかかわる行政の推進計画などの方針についての見直し等の諮問機関の組織形態を定めてまいります。

◇生涯学習推進の組織と業務評価

社会教育委員の会は、教育行政の生涯学習の状況や方針等の個別調査及び審議することが、社会教育法や条例に規定され、目的を達成するための役割を担っています。下呂市では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正趣旨を踏まえ、それまで教育委員会で所掌していた社会教育の生涯学習部門と、地域づくり等の市長部局で所掌している生涯学習部門との連携が、生涯学習社会の構築のために特に必要です。

生涯学習の推進にあたり、地域教育や市民協働、ボランティアなどの生涯学習に関する下呂市すべての項目の評価、方針等を所掌する審議会の設置が望ましいと考えます。このため、生涯学習諮問・評価機関の設置については、社会教育委員の会が兼務し、生涯学習に関する下呂市すべての項目を市長と教育委員会の合議に基づき、生涯学習審議会の設置と委員を委嘱する体制を整備します。

諮問・評価組織

生涯学習審議会委員（市長任命）
 社会教育委員（教育委員会任命）
 公民館審議会委員（教育委員会任命）
 図書館協議会委員（教育委員会任命）

併任の委員

◇評価の答申

諮問・評価組織は、毎年、生涯学習事業の内容を評価基準及び客観的成果、市民の評価などから検証し、その結果と改善点について、市長及び教育委員会に答申します。

【参照資料】

年代別ライフステージにおける生涯教育

※プログラム作成などのため行政や地域リーダーなどが参照

(1) 乳児・幼児期のライフステージにおける生涯教育

乳幼児期の生活環境は、人間形成の上で大きな意味をもち、保護者にとっても、地域社会への参加のきっかけの時期です。乳児、幼児の学習の場としては、保育園や児童館等があり、集団遊び等の中で経験する人と人との関わりや遊びは、将来の人間形成にとって極めて価値があり、身体活動や運動能力、五感の育成にも大変重要となります。

◎ 乳児、幼児期における生涯教育の目標

◇ 「みんなで子育て、子育てを支える街づくり」

生涯発達	乳幼児期 (0歳～3歳)	幼児期 (4歳～6歳)
重点	◎ 親への愛情と信頼をもち、情緒の安定した生活をする。	◎ 自律心をもち基本的な生活習慣を身に付ける。
A. 地域課題や生涯各期の課題に応じた学習を通して、自分づくりに努める。	① 事物にふれ、興味や関心をもつ。 ② 絵本や音楽、自然などにふれて感動する心を養う。 ③ 家族や周りの人とふれあいをもつ。 ④ 良いこと悪いことの区別がわかる。	① いろいろな体験をし、興味や関心をもつ。 ② 音楽や絵などの表現活動を体験し親子で文化的行事に参加する。 ③ 家族や仲間との交流を通して自律と人との接し方を身に付ける。 ④ 正しい言葉遣いと礼儀を身に付ける。
B. スポーツ・レクリエーションに進んで参加し心身の健康の維持・増進と仲間づくりに努める。	① 手足を十分動かし、いろいろな身体活動を体験する。 ② 身体を清潔にする習慣を学ぶ。 ③ 好き嫌いのない食生活をする。 ④ 保護者などの安全に配慮した指示や注意に従って行動する。	① 仲間と遊ぶ中で、運動の面白さを知り、体を積極的に動かす。 ② 規則正しい生活に努める。 ③ 食べ物に感謝し、何でもよく食べる。 ④ 身の回りの危険な所を理解し安全に気を付けて行動する。
C. 恵まれた自然環境の保護と、文化の保存・振興を通して誇りのある地域づくりに努める。	① 散歩や戸外での遊び、地域の自然にふれる。 ② 昔からの行事や、遊びに親しむ。	① 地域の自然を生かした遊びを通して、地形や気候、身近な動物や植物に関心をもつ。 ② 家族等と接する中で、昔の暮らしや話に関心をもつ。 ③ 市内の伝統的な行事や活動に親しむ。

<p>D. 地域活動への参加・奉仕を通して、活力と連帯感づくりに努める。</p>	<p>①身の回りの人に、元気にはっきりと、挨拶や返事をする。</p> <p>②自分が頼まれたことに、喜んで取り組む。</p> <p>③親や、祖父母と接する機会をもつ。</p> <p>④身の回りの人の世話や好意に対して、感謝の言葉を言う。</p>	<p>①積極的に仲間遊びへの参加を通して、集団行動を経験する。</p> <p>②誰とでも仲良く遊ぶ。</p> <p>③自分でできる仕事を進んでするように努める。</p> <p>④祖父母と交流する中で、進んで援助やいたわりのある行動に努める。</p> <p>⑤家族や仲間と交わる中で、思いやり、いたわり合い、ゆずり合い、分け合うこと、こらえることを体験する。</p>
--	--	--

◎ 乳児、幼児期における生涯教育の重点と力点

- ① 有識者、関係行政、子育て関係NPO団体代表、子育て当事者代表、支援当事者（子育て支援に従事する者）が、子育て支援の施策プロセスなどに参画・関与することができる仕組みの設置と取組。
- ② 子育て応援ブックの施策及び内容と総合案内窓口、ホームページなど情報サービスの充実。
- ③ 乳児、幼児と保護者の地域社会への参画。
- ④ 家庭の子育て参加の支援と、家族のメンタルヘルスへの取組。
- ⑤ ふれあいの親子体操教室の定期的開催。
- ⑥ 家庭教育支援民間団体とのネットワーク構築と、子育て支援ボランティアの育成。
- ⑦ 指導者、教材、資料に関する情報の整備を図る。
- ⑧ 地域性と時期、発達課題（生涯学習目標）に即した情報の提供。
- ⑨ 子どもの発達段階に応じた乳幼児学級、幼児学級の開設、親相互の連帯、親子のふれあい、親の学習の機会の充実。

※プログラム作成などのため行政や地域リーダーなどが参照

(2) 青少年期のライフステージにおける生涯教育

生涯にわたる学習・生活の基盤・基礎となる知識や技能、主体的に学ぶ意志や態度、さらには社会変化に適切に対応できる能力や、たくましく生きるための健康や体力など、「誇りをもって共に生きる力」を身に付ける重要な時期です。学校教育においては、学習指導要領でも学ぶ意欲や能力を育てるとの基本理念が示され、生涯学習の方針と同じ方向となっています。

◎ 青少年期における生涯教育の目標

「自発的な学習に努め、自らの能力を積極的に開発し、学ぶことの喜びを体験する。」

生涯発達	少年期 (7歳～12歳)	青年期 (13歳～20歳)
重点	◎ 旺盛な知的好奇心をもち積極的に仲間と関わり活発に行動する。	◎ 自己を理解し、自立を目指して、目標や見通しをもって物事に取り組む。
A. 地域課題や生涯各期の課題に応じた学習を通して、自分づくりに努める。	①基礎的な内容を体験的に学ぶ中で学ぶ楽しさや学び方を習得する。 ②芸術的・文化的な活動に積極的に参加し、読書に親しみ豊かな心を養う。 ③親子の活動や対話を通して、親の愛情や人との信頼に気づく。 ④社会生活を営む上での「ルール」を理解し、正しい行動をする。	①自分の将来に展望をもち、計画的に学習に取り組む。 ②読書や交流を通して、幅広い教養と、多様な考え方についての理解を深める。 ③自分を見つめ、自分の趣味を見つけ、人としての生き方を学ぶ。 ④親の生き方に学び、進路設計を考える。 ⑤異性や命の大切さに対する正しい認識をもち健全な生活に努める。
B. スポーツ・レクリエーションに進んで参加し心身の健康の維持・増進と仲間づくりに努める。	①スポーツの楽しさにふれ、進んで参加する。 ②日々、目標と計画性のある生活に努める。 ③健康を考え、栄養のバランスの良い正しい食生活をする。 ④安全のためのルールや指示を守り落ちついて行動する。	①得意なスポーツを見つけ、技術・体力の向上とスポーツ精神を身につける。 ②健康や体の発達について知識をもち、自己の欲望や衝動に流されず節度ある生活態度を心がける。 ③安全に関するルールを理解し、時と場に応じた適切な判断に努める。
C. 恵まれた自然環境の保護と、文化の保存・振興を通して誇りのある地域づくりに努める。	①自然環境や動植物について理解を深め、動物の飼育や植物の栽培を体験する。 ②自然環境を守る活動を理解し、環境美化・保全活動に、積極的に参加する。 ③人々の生活のあゆみに関心をもち、先人の努力に対して敬意や感謝の心をもつ。 ④地域の伝統的な行事や活動に役割をもって参加し、積極的な行動力を身に付ける。	①世界の国や人を理解し、国際理解を深める中で、広い視野と地域の特色や文化について理解を深める。 ②人権の意味を理解し、人権を尊重するよう心がける。 ③地域社会の伝統的な行事や活動に意欲をもって参加し、リーダーとしての資質を実践的に学ぶ。 ④郷土の自然や歴史を理解し、文化財や自然の保護、環境美化の担い手としての自覚をもつ。

<p>D. 地域活動への参加・奉仕を通して、活力と連帯感づくりに努める。</p>	<p>①地域の人の活動と自分の生活との関わりを理解する。 ②他地域の同年齢の仲間と交流する中で、地域活動の向上と改善に努める。 ③差別や偏見にとらわれず、誰にも温かく接する。 ④家族の一員として役割をもち、家事の分担と参加に努める。 ⑤災害に備え、自分の生命を守る方法を学び適切な行動に努める。</p>	<p>①自分と周りの人との関係を理解し福祉やボランティアへの関心を高める。 ②勤労の意義を理解し、自分にあった職業選択に努める。 ③地域の連携や奉仕活動、近隣付き合いなど地域社会の構成を学び、積極的に参加する。 ④キャンプなどの経験を生かし、自立した生きる「術」を学び、災害等緊急時に、落ち着いた対応と自他の生命の尊重に努める。</p>
--	---	---

◎ 青少年期における生涯教育の重点と力点

- ① 家庭の日における家族ぐるみの地域活動への参加
- ② 野外活動を通してのジュニアリーダーやシニアリーダーの育成
- ③ 青年活動の活性化のため、消防団や地域青壮年組織への参加とリーダーの育成。
- ④ 自主的青少年組織を通じた研修事業や地域社会活動の企画運営者としての参加の機会の提供。
- ⑤ 青少年育成市民会議理事構成団体を中心に、有識者、関係行政、NPO 団体代表、関係する市民団体などが、青少年の社会参画や施策プロセスなどに関与することができる仕組みの充実。
- ⑥ 地域の関係諸団体やスポーツクラブなど、青少年の取組体制の整備と支援。
- ⑦ 青少年指導者の認定制度の創設と顕彰。
- ⑧ 青少年の奉仕・体験活動・地域行事等の機会づくりや参加への配慮。
- ⑨ 地域で青少年と県立益田清風高校を見守り、健全に育てていこうとする気運の向上。
- ⑩ 市と青少年支援団体とのネットワークの構築と、青少年のボランティアへの参画。
- ⑪ 青少年の体験研修や施設の充実。
- ⑫ 家庭教育の充実。

※プログラム作成などのため行政や地域リーダーなどが参照

(3) 成人期のライフステージにおける生涯学習

成人期は、社会の形成者として自己を確立し、地域社会や家庭、職場などで中心的な役割を果たす時期です。地域社会でも中心的な役割を担い、課題を解決する決断の時期でもあります。

◎ 成人期における生涯教育の目標

「よりよい社会を築く仲間と、資質を磨き積極的な学習を展開する。」

生涯発達	成人期 1 (21歳～40歳)	成人期 2 (41歳～64歳)
重点	◎ 豊かな人生設計を確立し、積極的な社会参加を通して、自らを一層高める。	◎ うるおいのある家庭や地域づくりのために、積極的な参加を通して取り組む。
A. 地域課題や生涯各期の課題に応じた学習を通して、自分づくりに努める。	①職業や社会的活動を通して、専門的な見識を高める。 ②あらゆる学習機会、時間、余暇を生かして、幅広い教養をもつ。 ③家庭生活の意義と責務を理解し、親として信念と見識をもって明るく温かい家庭づくりに努める。 ④異年齢の友人との交流を深め、人間関係の大切さや認識を学ぶ。	①豊かな人生を目指し、生涯続けることのできる学習等に取り組む。 ②趣味や教養を高め、人生を楽しむ。 ③家庭や地域の中核として、ふさわしい責任ある生き方に努める。 ④今までの経験、学習を生かし積極的に物事に取り組む。
B. スポーツ・レクリエーションに進んで参加し心身の健康の維持・増進と仲間づくりに努める。	①得意なスポーツの技術を伸ばし、体力の向上と仲間づくりに努める。 ②各種スポーツ活動に参加し、地域スポーツの推進、育成に努める。 ③健康増進についての知識をもち、体力や体調にあった生活に努める。	①生活の中にスポーツをとり入れ、体力維持や健康管理に努める。 ②各種スポーツ活動に参加し、地域スポーツの発展に推進指導者としての役割を担う。 ③健康維持のため、継続的な運動を生活習慣に取り込む。
C. 恵まれた自然環境の保護と、文化の保存・振興を通して誇りのある地域づくりに努める。	①自分の仕事に自信と誇りをもち、技術等の向上を図る。 ②地域社会の伝統的な行事や活動に意欲をもって参加し、リーダーとしての資質を実践的に学ぶ。 ③自然環境の保護や環境美化について広く情報収集を行い、市や地域の課題に取り組む。 ④地域の伝統的な行事や活動に役割をもって参加し、積極的な行動力を起こす。	①自然環境の保護や環境美化について、市や地域の課題解決に、積極的に取り組む。 ②自然保護や環境問題の中核的リーダーとして活動を企画し、推進する。 ③歴史や文化財について理解を深め、文化財の保護や、地域に根ざした新しい文化の創造に積極的に取り組む。 ④伝統文化の担い手として、進んで活動し、地域の連帯意識や所属意識、後継者育成に努める。

<p>D. 地域活動への参加・奉仕を通して、活力と連帯感づくりに努める。</p>	<p>①地域の人の活動と自分の生活との関わりを理解し、異年齢の交流を図る。 ②地域づくりの意義を理解し、地域社会の福祉や奉仕活動に参加する。 ③人権感覚をみがき、差別や偏見の解消に対して積極的に取り組む。 ④福祉や環境、ボランティアへの関心を高め、積極的に参加する。 ⑤危険を予測し、時と場合に応じた判断や行動を身に付ける。</p>	<p>①市や地域の活動の中核として、進んで企画推進する。 ②世界や全国の情勢について理解や交流を深める中で、市や地域の生活改善に努める。 ③差別や偏見など人権問題解決に積極的に取り組む。 ④安全に関するリーダーとして、時と場に応じた適切な判断に努める。 ⑤災害に備え、自他の生命や財産を守るよう行動する。</p>
--	--	--

◎ 成人期における生涯学習の重点と力点

成人期には、家庭や地域社会、職場など、あらゆる場面での活躍が期待され、また、人生の中で長い期間を占めるため、文化・芸術、スポーツ活動などを通じて教養を身につけながら自己を一層成長させることができます。このために多様な学習機会が望まれ、毎日が豊かで充実した生活を送れる環境が求められています。

また、自立した生涯活動を目指した講座及び仲間づくりの支援が必要で、生涯学習講座は、①自立自主運営に移行 ②社会教育団体の構成員強化 ③地域教育の郷土史、歴史的講座など、生涯の友となる学習講座を開催することに視点を置きます。また、市民に開かれた生涯学習社会を構築するため、だれもが加入脱退出来、運営が民主的に行われる社会教育団体やNPO等の育成と制度の改正を目指します。

- ① 図書館、郷土資料の情報提供。
- ② 国、県、大学、民間が取組む専門的講座の情報提供。
- ③ 地域活動の活性化のため、消防団や地域青壮年組織への参加と次世代リーダーの育成。
- ④ 家庭の日に、家族ぐるみで参加する地域活動の事業の推奨。
- ⑤ 生涯学習講座の見直し。(自立と自主運営、組織の拡大、郷土史等地域の学習を目的。)
- ⑥ 社会教育団体等、登録団体の見直しと団体の情報提供。
- ⑦ 青少年指導者の研修。
- ⑧ 生涯学習講師の登録と情報提供。
- ⑨ 生涯学習団体のネットワークの構築。
- ⑩ ボランティア団体やNPO等の情報提供。

※プログラム作成などのため行政や地域リーダーなどが参照

(4) シニア期のライフステージにおける生涯学習

今までの経験と知識を持ったシニア期は、市や地域社会、各種団体等において、課題解決や運営など最高責任者としての役割を有し、地域づくりや次期リーダーの育成などまちづくりのキーマンでもあります。

◎ シニア期における生涯教育の目標

「学習した成果を発揮し、他人や社会の役に立ち、それを自分の喜びにする。」

生涯発達	シニア期 (65歳～)
重点	◎ 元気で楽しい生活環境を求めて
A. 地域課題や生涯各期の課題に応じた学習を通して、自分づくりに努める。	①常に社会の情報に目を向け、時代に適応した学習に励む。 ②一生の体験を振り返り、整理する中で、次の世代への伝承に努める。 ③趣味をもち、趣味を通して、仲間や地域社会との交流に努める。 ④若い人々や異なる世代と積極的に交流する中で、課題意識や役割意識をもった生活をする。 ⑤家庭や地域社会の模範となるよう心がける。
B. スポーツ・レクリエーションに進んで参加し 心身の健康の維持・増進と仲間づくりに努める。	①自分の体力にあったスポーツや運動を実践し、健康維持に努める。 ②自ら進んで心身共に健康管理に努め、能力に応じた仕事をする。 ③自分の体力や特性を自覚し、自分にあった行動に努める。
C. 恵まれた自然環境の保護と、文化の保存・振興を通して誇りのある 地域づくりに努める。	①家族や地域の人に、自己の経験を還元する心をもって指導、調整を図る。 ②同世代が連携し、より強いパワーを発揮して、住みよい里山づくりを図る。 ③地域の環境を保全するため、自分の個性や特技、経験を活かし奉仕活動や事業に積極的に参加する。 ④郷土の歴史や伝統を新しい世代に伝えることに努める。

<p>D. 地域活動への参加・奉仕を通して、活力と連帯感づくりに努める。</p>	<p>①常に柔軟な考え方と多種多様な価値観を受容する寛容さをもち、人生経験を活かして、地域の活動を支える。</p> <p>②自ら人権尊重に立った言動を心がける一方、世代を超えて考え方の普及啓発に努める。</p> <p>③人生の経験を活かし、地域の指導者として、地域の活動を支える。</p> <p>④災害に備え、日頃より生命維持や財産管理に努める。</p>
--	---

◎ シニア期における生涯学習の重点と力点

シニア期は、市や地域社会、ボランティアにおいて、中心的役割を有し、地域づくりや次期リーダーの育成など最もまちづくりのキーマンでもあります。また、本市では本格的な超高齢社会を迎えるにあたり、医療、福祉、就労施策の充実と、生涯学習による仲間、生きがいづくりを通して、高齢者が社会的に孤立することなく社会の重要な一員として、仲間とともに活躍することも期待します。

趣味、教養、健康づくりなどの講座や文化サークルと、地域活動やシニアクラブなどへの積極的な参加が、生きがいのある充実した生活へとつながります。

市は、シニア期の多様な要求に応えるための各種活動の情報等充実を図り、健康な長寿生活をめざします。

- ① 図書館、郷土資料の情報提供。
- ② ボランティア団体やNPO、生涯学習団体、国県などが取組む専門的講座の情報提供。
- ③ 社会の支え手としての後継者の育成。
- ④ 学習が困難な者への支援と積極的な普及・啓発・健康づくりの推進。
- ⑤ 生涯学習講座の見直し。(自立と自主運営、組織の拡大、郷土史等地域の学習を目的。)
- ⑥ 世代間交流の促進と知識・経験の伝承、及び世代間交流のための居場所づくり。
- ⑦ シニアクラブへの指導や助言、生きがい活動等の支援。
- ⑧ 生涯学習講師としての活躍。(長年培ってきた豊かな経験や知識の提供)

